



令和3・4年度 伊野中学校 町指定研究発表会

令和4年6月15日(金)、伊野中学校の町指定研究発表会が開催されました。町内の各学校から22名の参加がありました。

当日は、研究主任から研究経過の報告があり、3年生の公開授業、研究協議、基調講演が行われました。



研究経過報告

○自分らしさが発揮できる授業づくり

- ・生徒の写真を廊下などに掲示することで、楽しい雰囲気を作る。
- ・生活日誌に「今日一番頑張ったこと」「友達のいいところ」等のテーマを与えている。
- ・行事において、生徒同士のつながりを大事にしている。

○少人数による話し合いのある授業の成立に向けて

- ・ICTを活用し、生徒が意見を出しやすい工夫をしている。
- ・授業を見る視点、する視点の見直しをしている。

○今後の課題

- ・i-checkの結果を受け、対話・話し合いのポイントは高いが、発信力は低い。
- ・発信力を高めるための、新たな授業を見る視点・する視点を確立する必要あり。

「授業を見る視点・する視点10項目」

- ①動かす。開始15秒の巻き込み
- ②一度にたった一つの指示を出している
- ③無駄な言葉がない
- ④リズム&テンポがある
- ⑤作業指示が明確である
- ⑥授業をパーツで組み立てている
- ⑦一目でわかる工夫をしている
- ⑧空白の時間をつくらない
- ⑨笑顔で全員を励まし褒めている
- ⑩時間厳守

「授業を見る視点・する視点発信力ver」(案)

- ① クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、生徒が自分の意見を積極的に発言できる場面、または活動が1度は設定されている。
- ② クラスの多くの人や仲のいい友達と意見が違っていても、自分が正しいと思ったことは、それを主張するように生徒に指示している。
- ③ 学校生活の中で発言するとき、他の人と同じ意見だった場合でも、自分なりに考えて発言できる場面がある。

今までの項目も大事にしつつ、バージョンアップ

公開授業

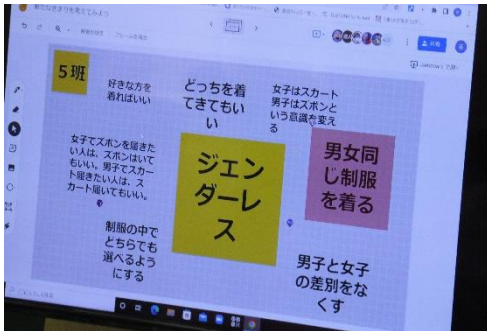
第3学年社会科(公民的分野)

単元名 私たちの暮らしと現代社会 私たちが作るこれからの社会

本時の目標

- 社会の変化から現在のきまりを見直し、より良いルールを作ることを通してきまりの在り方を考えることができる。

公開授業では「伊野中学校の新しい制服のきまりを考えよう」というテーマで、制服のデメリットを生徒がたくさん出し、班ごとにどのデメリットが一番大きな課題か、どのように解決したらよいかを出し合った。生徒は一人一人タブレットを持ち、考えたことや調べたことをjamboardのふせんに書き込んだ。最後は班ごとに意見を発表したり、自由な立ち歩きで気になる意見に質問をしたりした。



授業者より(篠崎 荘教諭)

- 昨年度からの取組である「授業を見る視点・する視点の10項目」を意識するとともに、今年度から取り組んでいる「発信力」についても意識して授業を組み立てた。
- 今回のテーマを「今後の伊野中の制服について」に設定したのは、クラスにいる生徒会執行部役員がこれからの伊野中について考えている状況がある中で、修学旅行先で女子生徒がズボンを着用している場面に遭遇したことによる。
- jamboardでまず自分の意見を書いてみることで自分の意見を発信するとともに、すでに同じ意見を書かれていたとしても、生徒に「まあ書いてみよう」と声掛けをしたり、同じ意見でも文章の表現が違うことでその生徒なりの意見であることを意識させたりした。

グループ協議

- jamboardを用いることで、一人一人が発信することができていた。
- 書くことで細かなニュアンスの違いが出て、同じ意見とひとくくりにならずに個人の意見として活用できる。
- 話すことが苦手な生徒もいるので、うなずきや聴く姿勢、書く姿勢などでも発信力が見とれるのではないかと。
- 質問タイムを入れることでより深い対話ができている。
- これから、他者の意見を聞いたときに疑問を持つことができる生徒を育てていきたいと思った。
- 積極的とはどのように見とればよいだろうか。

「発信力を意識した生徒間のつながりと生徒と教員のつながり」

議論の仕方を教えましょう

かねてから、社会科の学習内容に対話や議論の仕方の時間を入れたほうがよいと考えていました。「みんなのことをみんなで話し合っ、みんなが住みやすい世界を作っていく」これが民主主義の原則です。そのためには対話・議論をする必要がありますが、意外にそのようなことを学んでいないのです。

本日の授業では、議論を作ろうとされていました。根拠やデータをもとに、理由をつけて意見を主張する、いわゆる三角ロジックで話す。また、デメリットがいかに深刻かということも入れると、一般的に「議論を作る」ということになります。そして様々な立場からその議論を検証することも必要です。

今後は「議論をする」ことが課題になると思います。中学校で、まして4時間の単元で、それらの時間を確保することは大変だと思いますが、社会科のカリキュラムや他教科の関連の中で、議論の仕方が身に付いていくと、よりダイナミックな学習が展開されます。

発信力とは、巻き込み力

ふたば未来学園は福島県の復興のシンボルとして新しくできた学校です。その学校の人材育成要件・ルーブリックを見ると、「表現・発信力」の項目には1～5のレベルがあります。

| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 | レベル5 |
|--|--------------------------|--|--------------------------------------|--|---|
| 表現・発信力 どのような場でも臆することなく自分の考えを発信でき、他者の共感を引き出せる。 | 自分の意見や考えを、集団の前で話すことができる。 | 突然指名されたときでも慌せず、集団の前で、自分の意見や考えを相手に伝えるように表現することができる。 | データや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。 | 多様な人々へ、相手の立場や背景を考えたり、テクノロジーを活用したりしながら、分かりやすく伝えることができる。 | 多様な人々へ、熱意とストーリーを持って臆に落ちる形で説得力ある発信を行い、共感を得ることができる。 |

【福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 人材育成要件・ルーブリック(6 April 2021 Ver.)より抜粋】

発信力を高めるには、

- ①みんなと対話する
- ②誰かに提案する
- ③みんなを巻き込んで活動する

この3つが単元の中に含まれるような活動をしましょう。



授業を変えなければ対話は生まれません

対話し合う、議論し合うとなった時、右にあるような子どもの姿が見られることがあります。それは、みんなで対話することで意見が変わったり、新しい意見が出てきたりすることの楽しさを経験していないためかもしれません。論理的に意見を戦わせることの面白さを感じていれば、あえて自分とは違う立場で意見を言えるようになると思います。

また、楽しみながら質問力を鍛える訓練をする必要もありますが、質問をする時間の確保も必要です。対話・話し合いの核となるのは、質問力です。機械的な質問ではなく、聞くこと自体が楽しいんだと思えるように、教師の意識を変えましょう。対話を目指して、授業を変えましょう！

気になる子どもの実例

1. 正解のない問いへの意欲
2. 立場を決めることに躊躇
3. 理由を考えたがらない
4. 理由を1つ書いて満足
5. 友達と話し合えない
6. 「散歩」ができない
7. 感情的になる
8. 潔く変われない
9. あえて屈しない
10. 即興力が弱い
11. ユーモアがない

研究主任より

今回、i-checkによる「発信力」を意識した授業づくりを行いました。その際、新しい伊野中の授業を見る視点・する視点を作成しましたが、事後協議でも「『積極的に』とはどのようにして見とるのか」という意見をいただき、再度、伊野中教職員で実践しやすく、検証しやすい、「授業を見る視点・する視点(発信力Ver.)」について校内研を行いました。現在、「授業を見る視点・する視点(発信力Ver.)」作成中です。今後、発信力を意識した、深い対話のある授業づくりをしていく所存でございます。

参加者の感想より(抜粋)

授業や学級づくりについて

- どの生徒も自分の意見を表現することができていて、生徒たちにとって、安心できる学級なのだと感じました。また、生徒たちは、話し合いにも自然に参加できており(研究授業だから…というわけではなく)、日ごろから、話し合う素地が培われていると感じました。篠崎先生の学級経営のたまものだと思います。
- 担任の先生と生徒さんとの関係性が良いことがわかりました。柔らかい空気の教室でした。授業は、他の班の意見に、公正、公平、効率の視点から質問を考え、それに答える負荷を与えたら良かったのでは。今回は対話を通して考えが深まったのか疑問が残りました。最後に、jamboardで各自が自分の意見を入力し、班で話し合った経験は発信力を高めることにつながってるんだよ!と生徒達を価値づけると良いと思いました。

学校版寺子屋について

- 気になる子どもの実際、発言無し、誤答に対しての言葉がけなど勉強になった。
- 双葉みらい学園のような、ゴールイメージが具体にあると、授業改善にも効果があると思います。伊野中学校の先生方の前向きなエネルギーを感じました。
- 対話や話し合いの授業の中で、自分の意見を伝えることのできる授業だった。また、jamboardを使うことで全員の考えがみんなに伝わるので、時々jamboardを活用した授業を取り入れることも考える必要があると思った。
- 対話の大事さを再認識しました。発信力を培うための機会を、授業の中で増やしていきたいと思います。
- 福島県の育成したい力を具体的にめざす段階的な可視化は、育てる集団としての共有も図れ、作成時にも生徒の実態に応じた議論がされたのだと感じ、参考になりました。
- 菊池先生の覚え書き、身にしみました。自分の言葉で意見を持たない、自尊感情の低い子どもへの指導、悩みます。今日の学びを実践に活かしていきたいです。

研究所より

伊野中学校の研究発表会(中間報告)では、発信力を高めるために取り組み始めたことを発表していただきました。生徒や先生の雰囲気柔らかく、安心感のある学級でした。これからいろいろな方向性が決まっていくとのことですので、3学期の報告が楽しみです。伊野中学校の皆様、ありがとうございました。